

屋外展示の民家

民俗博物館を中心として、当公園内には県下各地から、代表的な民家を選び、移築復原しつつある。

公園内の民家移築は4集落に分けて進めている。この集落分けは、旧城下町や旧寺内町・旧街道の町筋に所在する家を移築復原する「町屋集落」のほか、奈良県の自然的地理的観点から3集落に分け、奈良盆地とその周辺部を「国中集落」、東部宇陀山間を「宇陀・東山集落」、南部山間は「吉野集落」とする。公園内のこれらの集落地は、それぞれの自然環境に則した配置としている。

民家とは一般に庶民住宅をさし、町屋、農家、社家（神主の家）、下級武士の家などがある。

民家の形態は各地方毎に、特色をよく現しているが、これらはその土地での環境・風土に強く影響を受けているほか、政治的・社会的背景も見逃しえない。また、その時、その時代での生活変化を受容する。その結果、創意工夫が繰り返されてもきた。

奈良県の民家は、大和棟造りがその代表的なものとして知られているが、奈良市の旧奈良町、橿原市今井町などでは、古くから本瓦で葺いた屋根がある。また、東部山間は屋根全体を草葺きでふきおろした素朴な屋根形を呈し、また南部山間では杉皮やへぎ板葺きの屋根が多い。これらはその地方の一特色にあげられる。

奈良県下は、全国的にみても江戸時代に建てられた民家の実在数がすこぶる多い。全国最古に属する重要文化財堀家住宅（西吉野村）は中世まで遡ると見られている。さらに、建築年代が明らかな民家として最も古い、慶長12年（1607）記の棟札を有する重要文化財栗山家住宅（五条市）がある。また、江戸時代初期から末期までに建てられた民家も年代順に実在し、特に幕末期のものではおびただしい数の民家が残っている。

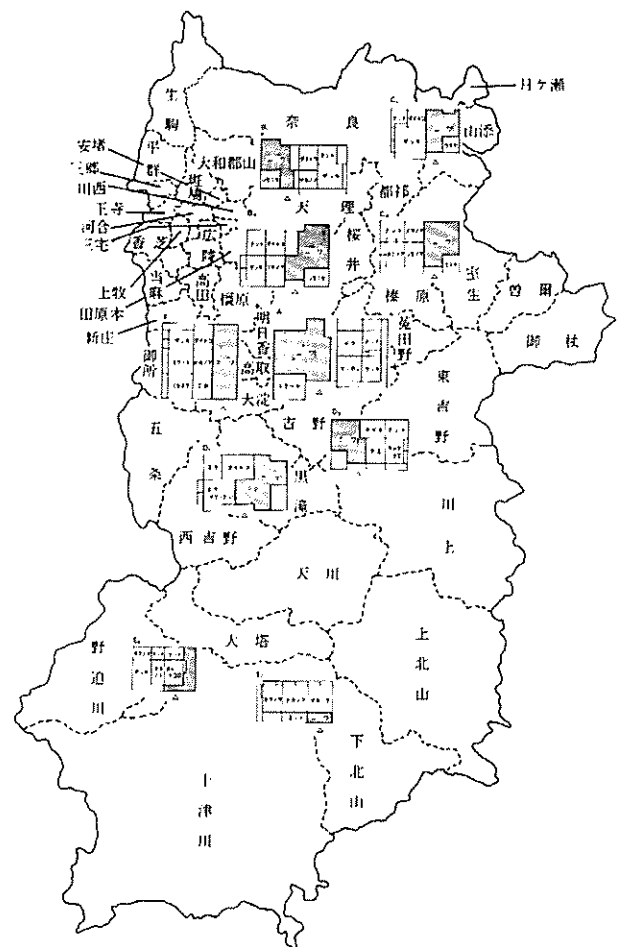
さて、県下の民家の間取りおよび小屋組形式の一部について紹介すれば、間取りの形式については過去に行われた調査研究によって、10形式に分類される（右図「奈良県民家の平面分類分布図」参照）。これを大別すれば、①大型住宅にみられる古式な五、六間取り、②平地部の四～六間取り、食い違型四間

取り、③東部山間の三、四間取り、食い違型四間取り、④吉野川流域の三、四間取り、食い違型四間取り、⑤吉野南部の三～五間取り、横一列の間取りに、それぞれ分けることができる。

小屋組形式を屋根葺き材との対応からみれば、瓦葺き屋根は和小屋であり、茅葺・稲および麦藁葺きは^ま首組である。また杉皮やへぎ板（薄く割った板）で葺く場合は屋根荷重が軽いため、極めて簡単な和小屋である。

建築史の民家研究は解体された民家を、その建築された当時に復原する研究技術によるため、当公園に移築する民家も、その時代に建築された当初の平面、外観に復されている。実際の建物として見ることができるとして時代の変遷を明らかにするばかりでなく、往時の生活様式をも想起し得る。

以上、奈良県の民家についてみてきたが、次頁から当公園内に移築復原した住宅を説明する。



▲奈良県民家の平面分類分布図

町屋集落

重要文化財 旧白井家住宅

もと高市郡高取町上土佐に所在していた町屋で、建築年代は明らかではないが、構造手法上18世紀前期頃の建築と推定されている。

高取町上土佐（旧土佐町）は、植村藩2万5千石の城下町で、町奉行支配下にあった半商半農的な町である。

白井家は伊勢から当地に移り、旧高取城大手へ通じる道の北側に屋敷を構え、代々、屋号を「伊勢屋」と称し、藩の公用伝馬の役を務めるかたわら、酒、醤油の販売を営むほか、大年寄をも務めたと伝えられている。

主屋は間口約9間、奥行3間半、切妻造の茅葺で、表裏側に庇を付け、本瓦で葺かれている。

正面向って右手に土間をとり、表隅に商いの場所とした中二階付きの下店を設け、その裏は釜屋となっている。

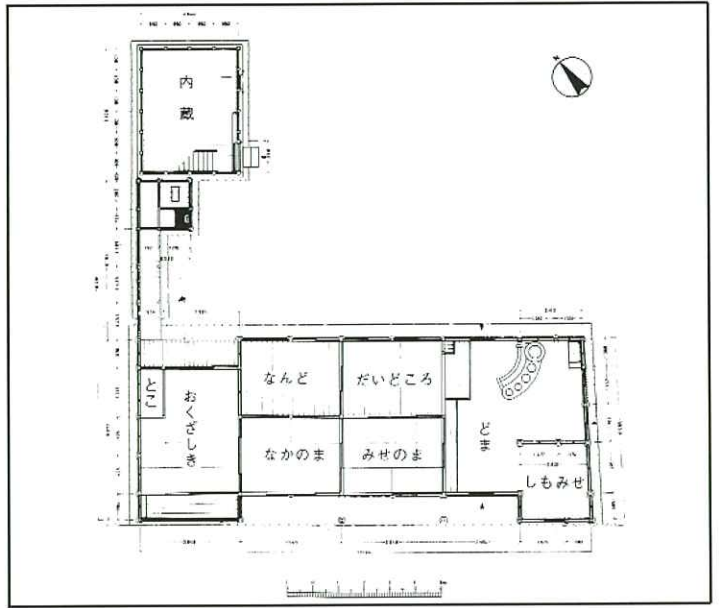
左手の居室部は整形四間取りとし、上手に床を備え、表裏側には縁を付けた奥座敷9畳の計5室である。

さらには、なんど出入口を帳台構えで間仕切り、その他の箇所につき止め溝が多く用いられている。

また、構造材は全体に木柄が細く、表側は上屋柱筋で間仕切り、背面側は上屋柱を抜き、部屋に取り込むなど、この時代の特徴をよく表している。

なお、奥座敷の表側は格子構えとなっているにもかかわらず、農家風の平面・外観を持つこの建物は、当時の町場の性格を表わしたものであろう。

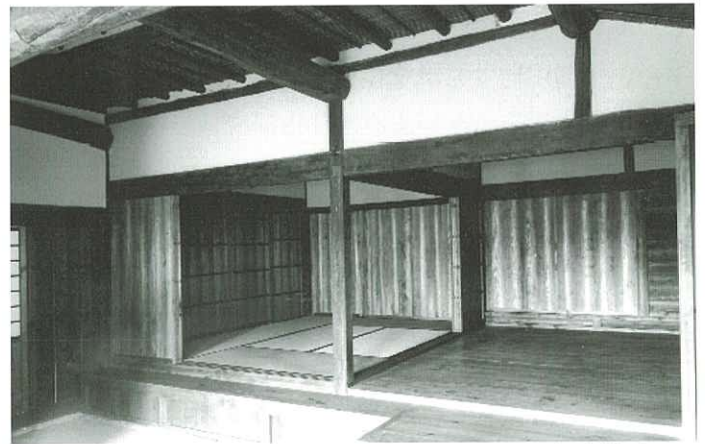
主屋裏の内蔵は二階建てで、建築年代は主屋と同じ頃に建ったようである。



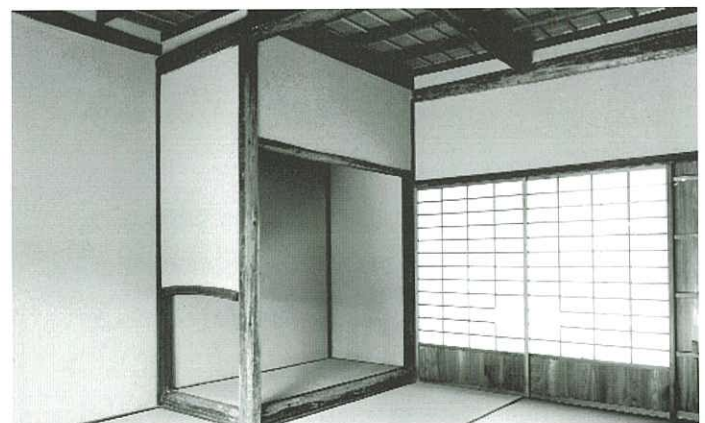
▲平面図



▲外観（右手は主屋、左手は内蔵）



▲右手はなんどの出入口（帳台構え）



▲奥座敷

町屋集落

県指定文化財 旧鹿沼家住宅

もと大和高田市永和町に所在していた町屋で、建築年代は文化9年(1812)の「請取普請状」が現存し、構造手法上からもこの時の建築と判断される。

古来より当地は、東西に旧横大路(長谷街道)と、南北には下街道の主要路が交差した要地で、近世には宿場および商業で栄えた地域である。

鹿沼家は横大路の北側に居を構え、代々米屋を営んでいたと伝えられている。

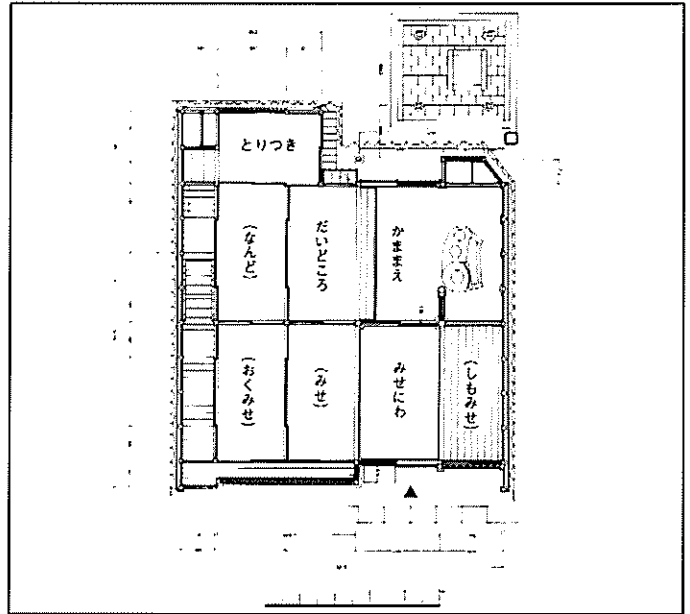
この主屋は間口4間半、奥行約4間半、切妻造で正背面に庇を付け、屋根はすべて棧瓦で葺き、外部は白漆喰の塗籠となっている。また、表側の庇部分には格子を飾り、二階の両端に袖壁を付け、中央部に出格子を飾るところなどは、町屋特有の姿をよく表している。

さて、平面の右手は通り土間とし、その前後を仕切り、表側の下手には米殻を並べた下店を設け、裏側は内向きの生活の場とするカマド・流しがある。このカマド上方は吹放し、煙出しをあげ小屋根をのせている。

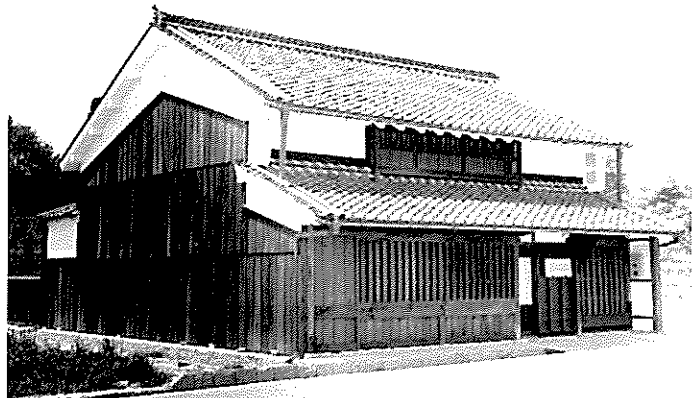
一方、左手の居室は4畳敷きの整形四間取りとし、この背面に3畳室が突き出した5室である。なお、居室上手の半間通りに押入れを設け、3畳室では床・仏間を付けている。

二階へは奥の押入れから、箱階段で登り下りするが、この二階部は建築当時のままで、居室に使われた形跡はなく、物置きとして使われたようである。しかし、二階の軒は高く、小屋組に登り梁を採用して空間が広く、表側に出格子を付ける。これらは、建築後、居室を考慮したものと考えられる。

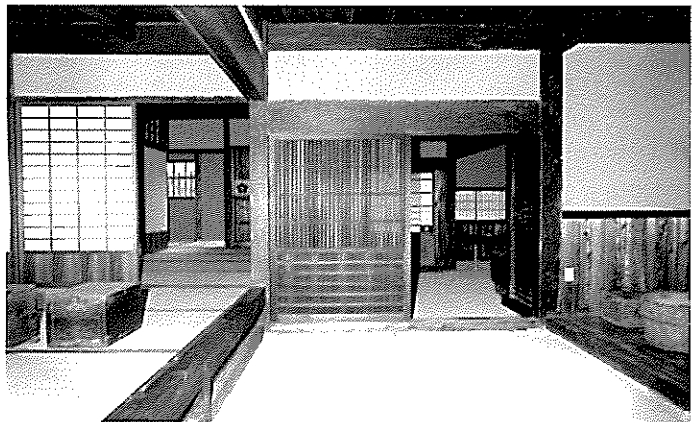
二階に出格子を有するこの主屋は、県内では最も古い例にあげることができよう。



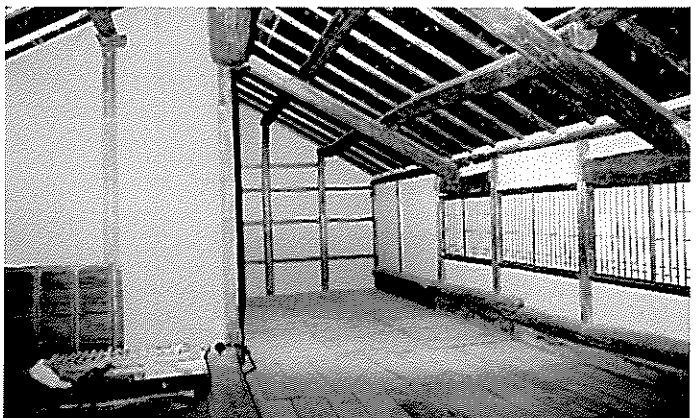
▲平面図



▲外観



▲みせにわ



▲二階

国中集落

県指定文化財 旧吉川家住宅

もと榎原市中町に所在した自作農の典型的な農家で、庄屋を務めたといわれている。建築年代は確証を欠くが、当家の過去帳によれば元禄16年(1703)に山ノ坊村より分家した頃の建築と推定されている。

この中町(旧中村)は、国中の特徴的な農村集落の一村で、この村の西端に当家があった。

国中の代表的な屋敷構えは、中央に南面して主屋を建て、表か裏かに物干し場をとる。表側には長屋門を構え、この門の両端から奥へ、コの字形に納屋・稲小屋・米蔵・内蔵離座敷などの建物で取り囲むのが、いわゆる囲造りである。当家もこの囲造りで、物干し場は主屋裏にあった。

主屋は間口6間半、奥行約4間、入母屋造の茅葺で、この周囲に本瓦葺きの庇が付く。

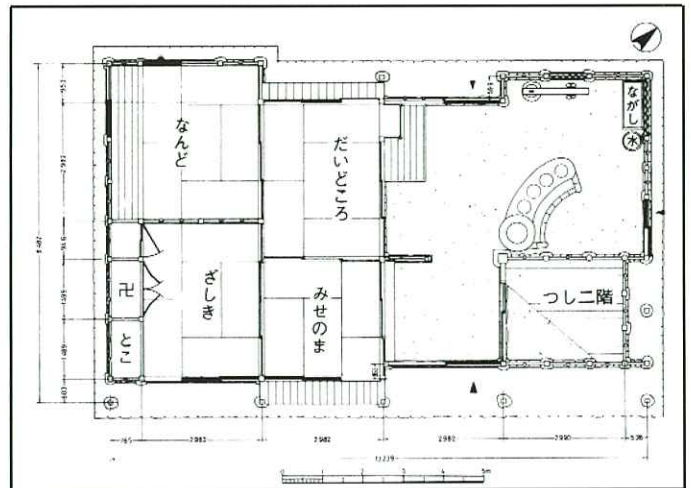
平面の右手は土間とし、この表隅に中二階付きの機部屋を設ける。この裏側はカマド・唐臼・流しなどを備えて釜屋となっている。

左手の居室は4室で、下手2室の間仕切り位置は、半間表側にあつて、食違四間取りである。

この間取りは広間型三間取りより、発展した平面形式と考えられている。

なお、この建物の構造では、多くの上屋柱を省略して、庇部分を部屋に取り込む発展を表わす反面、間仕切りは比較的開放的であるが、外側の柱筋では土壁や突き止め溝を多く用いた形式などが施されて、古式をよく留めている。

座敷の床・仏間・物入れは建築後、約80年位経過してから改造されたものと思われる。



▲平面図



▲外観



▲釜屋から居室



▲釜屋

国中集落

県指定文化財 旧萩原家住宅・旧赤土家離座敷

もと桜井市下（旧下村）に所在していた農家で、組頭を務めたといわれている。建築年代については史料を欠くが、構造手法上からみて18世紀初期の建築とみられる。

下村は昔、宿場で栄えた桜井から、南方へ約2 km 離れ、多武峰に向う街道に沿った村落である。

萩原家はこの村の北部にあって、西丘陵の中腹に屋敷を構え、主屋は奈良盆地を望むところに、南向きに建てられていた。

この主屋で間口6間、奥行4間、入母屋造の茅葺で、正側面を葺きおろし、背面には庇を付け本瓦で葺く。

一方、内部の右手は土間とし、正面隅にツシ二階付きの馬屋を設けている。また、この裏側は釜屋としている。

左手の居室は、整形四間取りで、上手室の表裏境には仏壇・床・物入れを備えている。

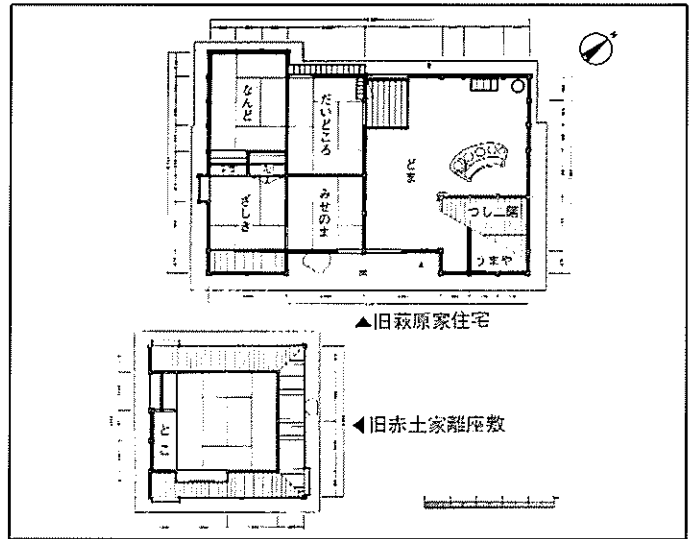
この建物は開口部が少なく、特に内部の表側居室と、土間境を土壁で塞ぐところなど、古式をよく表わし、さらに表側の上屋筋に柱を立て、上屋梁を受けているが、一方の背面側では、庇を部屋に取り込んだ。旧吉川家主屋と同じ技法が見られる。また、なんど出入口に帳台構えはないが、敷居が床面より高くその名残りを留めているところなどは、発展形式をよく表している。

離座敷 もと香芝市狐井の赤土家に在った。

当家は系図によると、楠木氏を祖とする農家で、庄屋を務めたと伝えられている。

この建物は見たところ小規模ながら、均整のよくとれた姿を表している。内部は8畳1室で、本床を備えた構成はすばらしい。

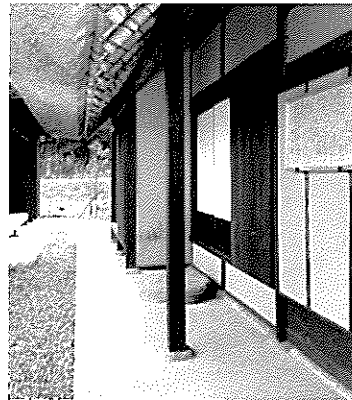
なお、8畳1室と本床部分は18世紀初期以前の建築と見られるが、屋根や庇は、後世に整えたようである。



▲平面図



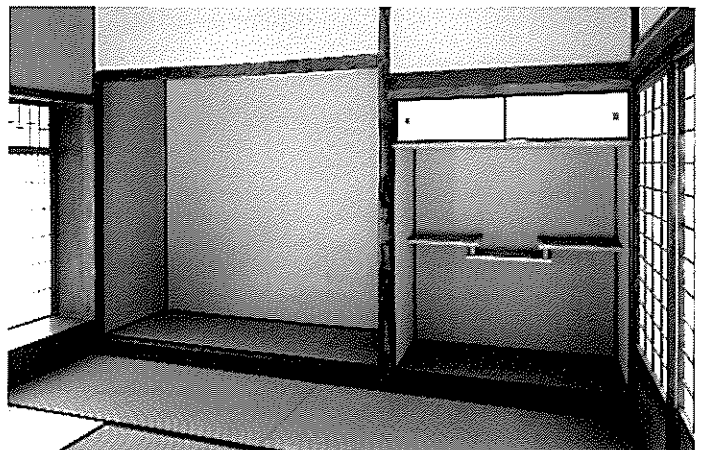
▲外観（右手は旧萩原家、左手は旧赤土家離座敷）



▲正面軒先



▲みせのま



▲旧赤土家離座敷内部

旧西川家土蔵

もと天理市二階堂北菅田町にあった農家の土蔵。西川家は奈良～橿原を結ぶ旧街道（中街道）に面して建てられ、江戸時代には「庄屋彦兵衛」と呼ばれ、この地の庄屋を務めた。

この土蔵は当家では高蔵と呼ばれ、衣類・食器などを収納していた。他に米蔵、北蔵があったが先に解体されこの土蔵だけが残っていた。

構造は重要文化財旧白井家住宅の内蔵と類似し、建築年代は明らかではないが幕末頃と推定される。

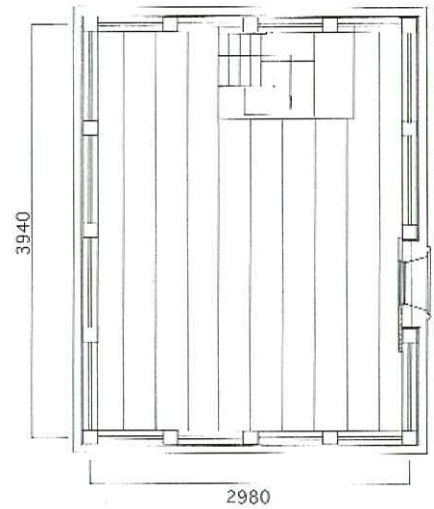
間口2間（3.94m）、奥行1間半（2.98m）、2階建の切妻造で屋根は本瓦葺き、外壁は大壁白漆喰塗り、内壁は貫外面での中塗り仕上げ、小屋組は棟木・母屋・桁とも丸太材で、屋根裏の構造を見せる化粧屋根裏としている。

1階床は梁行き方向に床板を張り、2階上り階段は箱階段（引き出しや地袋など収納装置のある階段を兼ねた家具）の上にさらに段梯子を取り付けており、2階床は各柱ごとに胴差しを入れ、その上に床板を桁行き方向に張っている。

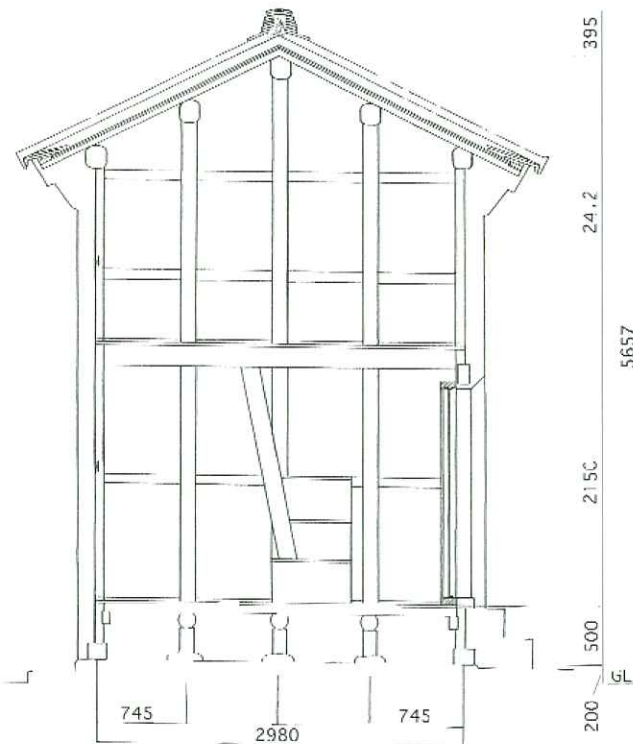
奈良盆地の農家住宅における典型的な内蔵といえ、復原にあたっては、土蔵の伝統工法を忠実に再現している。火事などの非常事態や急激な寒暖湿度変化から家財を守る土蔵は、建築時に手間がかかることから、その家の社会的地位をあらわすものとなり、白壁仕上げや細部の意匠にも格調が重んじられた。重厚な土蔵の佇まいは奈良盆地の集村型農家住宅の彩りともなっている。



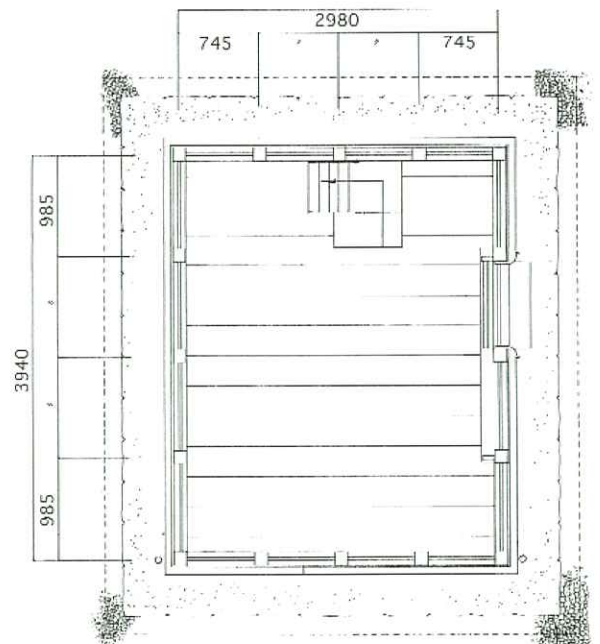
▲外観



▲二階平面図



▲断面図



▲一階平面図

宇陀・東山集落

県指定文化財 旧八重川家住宅

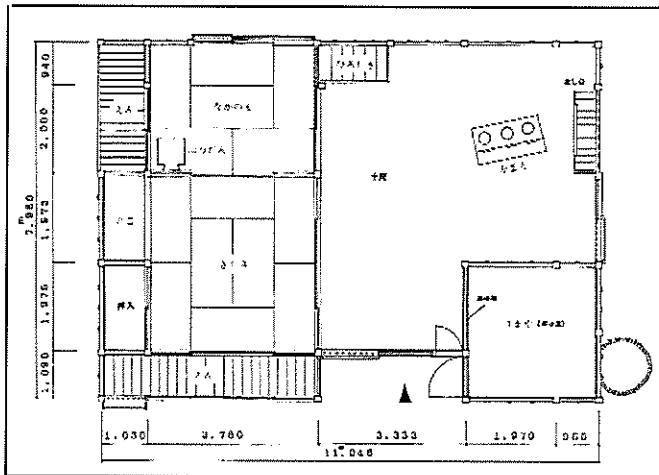
当住宅は山辺郡都祁村大字針に所在していた。代々農業を営んだ家であると伝える。建築年代を直接示す資料を欠くが、建物の形式手法上からみて19世紀前半頃の建築と思われる。

移築前の間取りは正面向かって左半が居室、右半は土間であった。居室は三室で表側に半間の縁が付き、表「ざしき」8畳は床、押入をしつらえ、裏の二室は土間側に、「なかま」8畳室、「なんど」3畳、押入付きで妻側へ半間張り出していた。土間は表の右隅に「はたべや」4畳半、この妻側に風呂、便所を設け、はたべや裏側は釜屋で、その裏側は流し台、妻側に戸棚が付き、居室境は表より上り縁、「ひろしき」を付設し奥に戸棚を設けていた。

軸組は上屋柱は頂部を京炉組とし、差鴨居・貫・足固め等、下屋柱とは垂木、貫、足固め材で軸組を組み固め、上屋梁は長さ3間強、表側桁より突き出して小天井を造り、せがい風とする。土間の梁は縦横に架構するところ等は、東部山間の特徴を示していた。小屋組は合掌組で、屋根は茅葺、正面を葺きおろして棟飾り部分は切妻形、棧瓦葺きの小屋根で覆う。天井は上屋梁上は一連の簀の子天井、居室部はさらに棹縁天井を張り、釜屋上部は天井を凸型に開きこの見上げ面を土で塗り固めた煙突状になっていた。

さて建物の復原は部材痕跡等によって建築当時の間取り、外観に復した。外観は棟飾り部分の棧瓦葺小屋をカラストビ形式の棟飾りとし、両側及び背面の庇を撤去して四面葺きおろし形式となった。間取りは居室は二室となり「なかま」8畳は6畳となりこの表側に半間の縁が付く。また「はたべや」を撤去し「まや」とした。土間の背面及び妻側の側柱通りは半間内側に復した。土間及び居室境の上り縁を撤去して土間を現し、さらに「ひろしき」は裏側で半畳大の広さとなった。

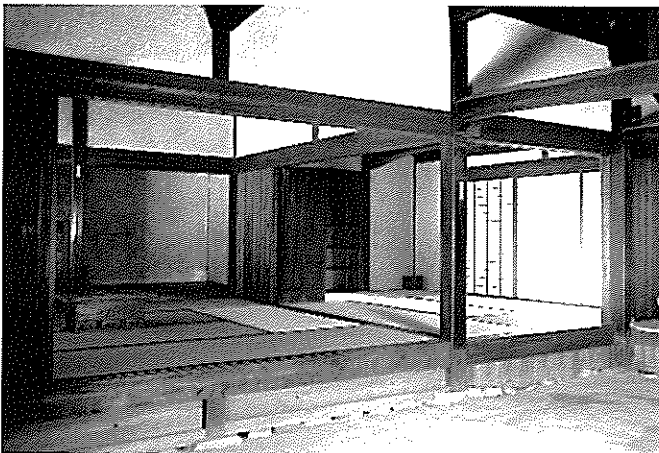
この住宅は県内の住宅史を知るうえで標準的間取りを示し、さらに軸部・架構方もこの地方の特色を示す等、資料価値は高い。



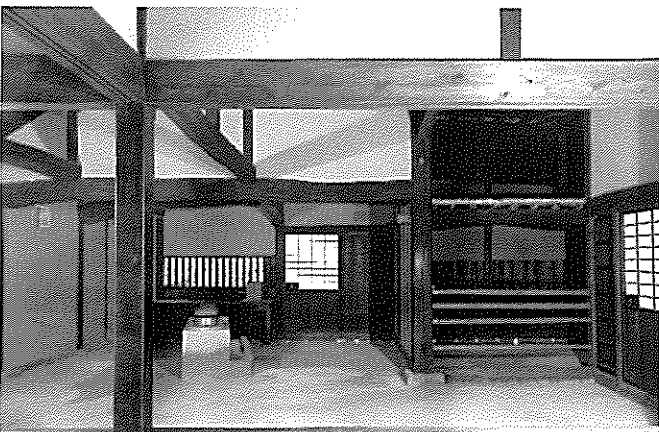
▲平面図



▲外観



▲居室



▲居室から土間

宇陀・東山集落

重要文化財 旧岩本家住宅

もと宇陀郡室生村黒岩に所在していた。農業・林業を営み、庄屋年寄を務めたと伝えられている。

建築年代については、構造手法上から19世紀前半でも末頃の建築とみられる。

黒岩は室生寺から東南方へ約5kmへだたり、胎ノ川の支流、黒岩川の中程で、谷間の南斜面を利用した村落である。

また、畿内より伊勢に向う伊勢街道が、地区中央を通っていた。

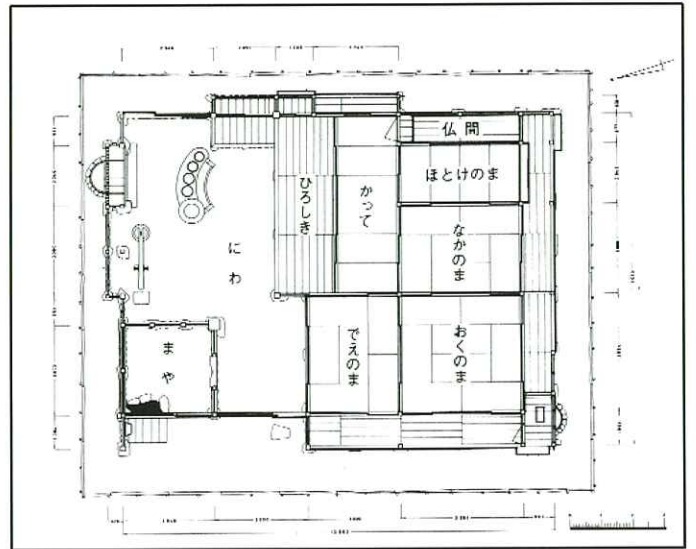
岩本家はこの街道の下にあって、主屋は河岸段丘部を造成したところに建っていた。

建物は間口約7間、奥行5間半、入母屋造の茅葺で、葺きおろした素朴な外観を呈する。

正面向って左手の土間は、西北隅に馬屋を配し、奥にカマド・流し・唐臼を備え、戸棚も付き、広い釜屋としている。

右手の居室は、桁行を二分して、上手には前後に、3室が並び、下手は前側に6畳室があり、後ろ側は半間、土間に張り出して、長6畳2室が左右に並ぶ。さらに、表と南側に半間通りの縁が付き、この外側は雨戸に建て込む。この縁の西南隅に、上便所を設けている。なお、上手奥の4畳室の南側に付書院があるが、東側は仏間である。

この建物の平面は三間取りに、座敷3室を加えたもので、食違型の発展形式と考えられるほか、構造では表側は、せがい造りとし、間仕切りの食違う所では柱を抜き、背の高い差鴨居を多く入れ、すこぶる開放的である。また、土間上の奥行に太い梁を半間毎に架け渡すなど、この地方の特色をよく示している。



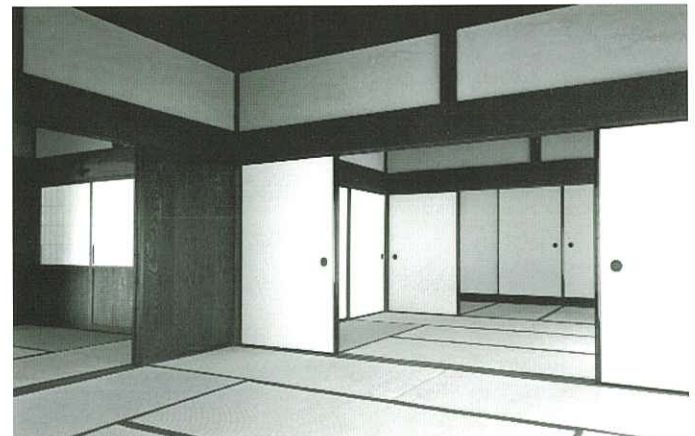
▲平面図



▲外観



▲にわ



▲上手の居室

宇陀・東山集落

県指定文化財 旧松井家住宅

もと宇陀郡室生村上笠間にあった農家。当家の口伝によれば、その昔、代官を務めた子孫と伝えている。この主屋の建築年代は、文政13年3月(1830年)記の祈祷札(解体中に発見)や、間取り、構造などから見ても、この文政13年の祈祷札から降らない頃に建てられたものと認められる。

室生村上笠間は、当村山間を通る伊勢3街道のうち、笠間越えと称する街道が、当地中央部を東西に通っていた。当主屋はこの街道を見降ろす丘陵の中腹に、南南東を正面に建てられていた。

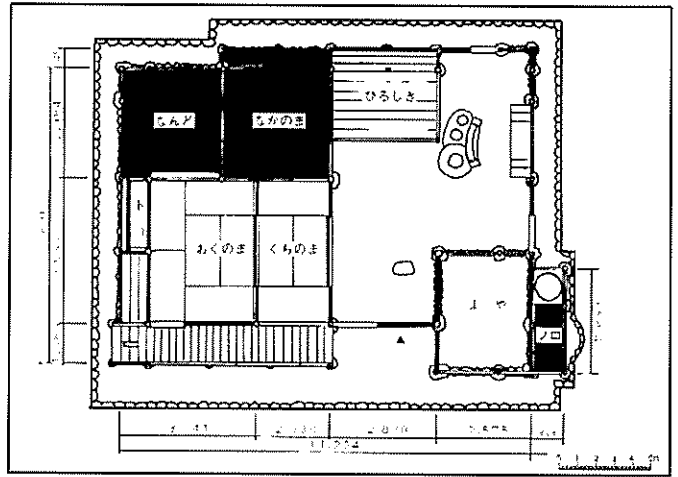
さて、この主屋は、間口5間半、奥行4間の規模で、入母屋造の茅葺きでふきおろした素朴な外観を呈している。

間取りは、向かって右半が土間、左半は居室4室である。土間部には表側の隅に馬屋(牛小屋)、この東側に風呂場が付設されている。さらに、土間奥には板敷きのひろしき・カマド・流しを設けている。居室の4室は、表側2室、裏側2室で、表側の上手の部屋には床・仏壇・押入が付いている。

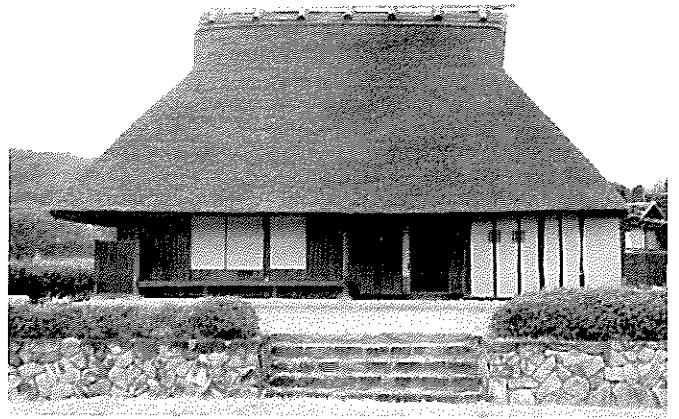
また、吹き放しの縁が表裏につき、このうち、表側の西端に便所を設けている。なお、この建物の特色は、平面は間口方向に食違う四間取りで、前座敷型三間取りから発達した間取りである。

さらに、構造は表側の上屋筋に柱を立て、せがい風の小天井を造るが、背面の柱筋では、差物・梁で受けて、柱を抜き、居室と土間を広く取り込む構造法である。

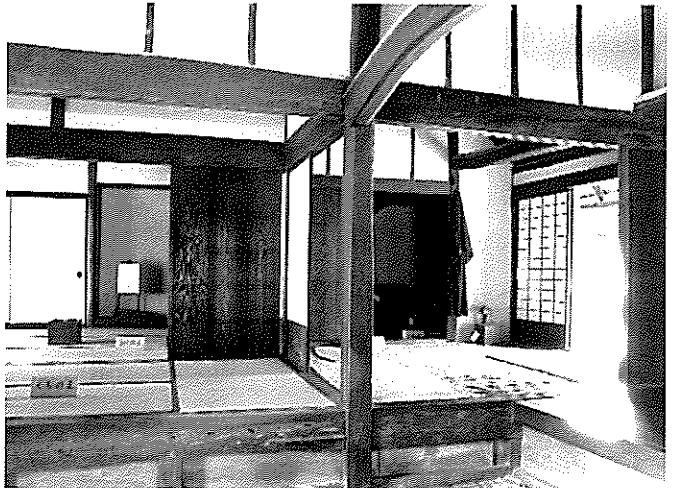
また、間仕切り箇所には突き止め溝を多用するほか、居室裏側の床が、簀の子床となるなど、東部山間の民家の変遷をよく示している。



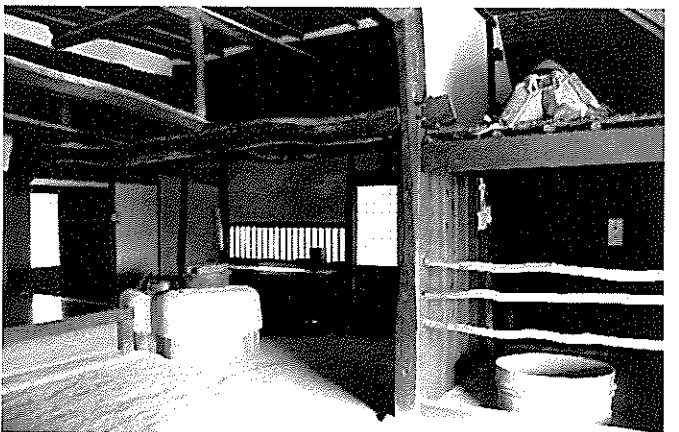
▲平面図



▲外観



▲居室



▲土間

吉野集落

県指定文化財 旧木村家住宅

もと吉野郡十津川村大字旭字迫に所在していた山間の家で、農林業を営み、幕末頃には村役を務めたと伝えられている。

建物の建築年代は主屋が文政4年(1821、棟札)、納屋および表門は19世紀中頃である。

この家が所在した当地は「迫と背中は見ずに死ぬ」言いならわされたほど山深い峡谷の地である。また、全国でも最多降雨の一地带であり、さらに季節によって、風が谷間から猛烈に吹上げる土地柄でもある。

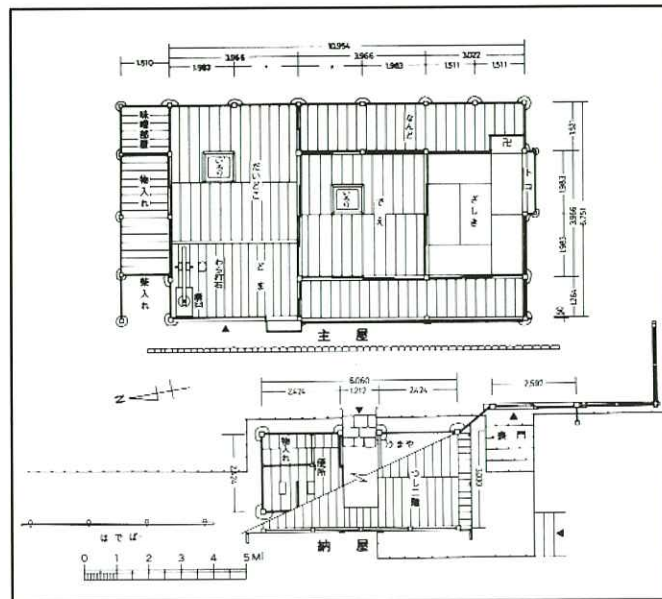
その様な厳しい自然環境のため、県北部の民家とは姿や間取りが大きく異なっている。県北部の民家は一般に屋根が瓦および草葺で、屋内は居室と土間に区分されるほか、内外の間仕切りに土壁を多用する。

しかし、奥吉野方面では、この家のように屋根を杉皮でふき、石を乗せ、妻側の端部にウチオロシ(雨除け)が付く姿となる。また、屋内は居室と土間の明快な区分はなく、間取りは3室の横1列型に、表側に縁、裏側に小室を設けるほか、間仕切りは総て板張りとなる。さらに、土間(地面のまま)に当る所にカマドは無く、板敷となる等の造りがこの地方の標準的民家の様である。

以上のほか、構造は極めて簡単で、柱・梁等の部材は角材で木太く、棟持柱を有しているなど古式な一面を示している。

付属の納屋は屋内を牛小屋と便所に二分して、天井上は背面上部を突き出してツシ2階を広くした造りとなっている。

なお、この住宅によって、奥吉野地方の当時の生活様式を思い起すことができると共に、主屋の建築当初の規模(間口4間、面積16.5坪)から増築をへて、さらに納屋・表門が建てられ、屋敷構えが拡充してきた過程も併せ示す好資料である。



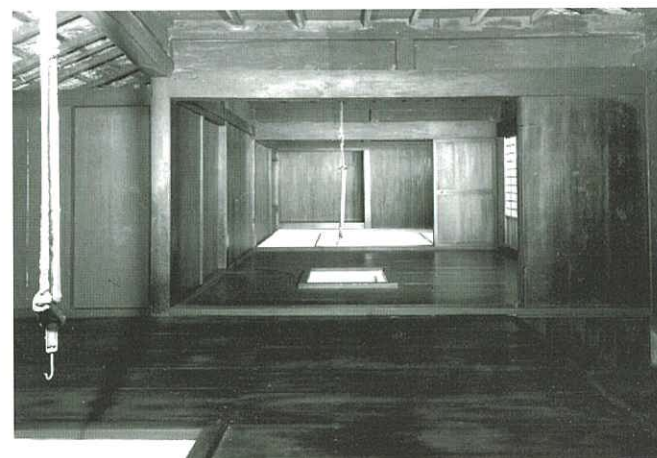
▲平面図



▲外観(正面)



▲外観(側面)



▲居室

吉野集落

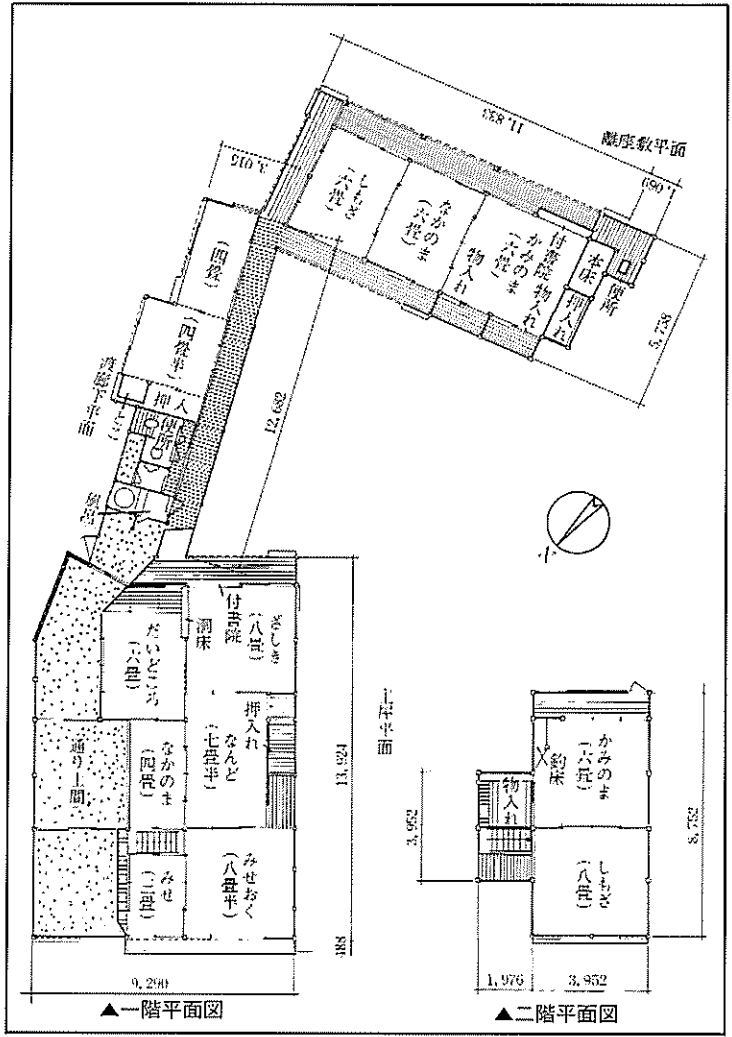
県指定文化財 旧前坊家住宅

前坊家はもと吉野山の門前町筋にあって金峯山寺仁王門と発心門（銅鳥居）のほぼ中程、大道を北面して屋敷を構え、代々吉野水分神社の神官を勤めたと伝える家である。

この、建物の建築年代は、主屋（切妻造、一部二階建）、渡廊下及び離座敷の建築年代を示す資料は明かではないが、解体中の各種の部材調査から総合的に判断すれば、主屋の居室、表側四室の柱が経年的にみて18世紀中頃であり、また転入材もあるところから弘化年間（1844～7年）頃に主屋大修理・改造を行ない順次、渡廊下及び離座敷を建てたものとおもわれる。

主屋は大道に北面した懸造（吉野建て）で、離座敷を主屋後方に建て、この間を渡廊下で接続した、逆コの字型の建物である。移築前の屋根は、主屋と離座敷の一部、庇の棧瓦葺き以外は波形鉄板葺きであったが、全て杉皮葺きに復原した他は、おおむね移築前と同じである。

この住宅は、大した宅地造成を行わず地形そのままに建物を添え付けるように主屋、離座敷、渡廊下が建てられており、口吉野地方の吉野建て民家を知るうえで重要な建物である。



▲外観（正面）



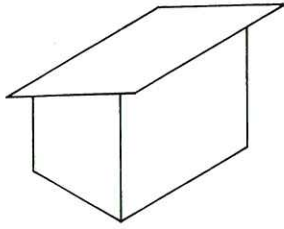
▲離座敷より渡廊下、主屋を見る



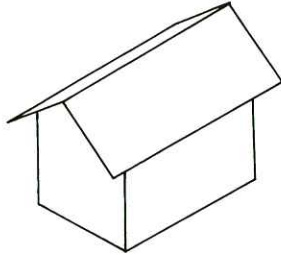
▲外観（東側面）

民家の解説概要図

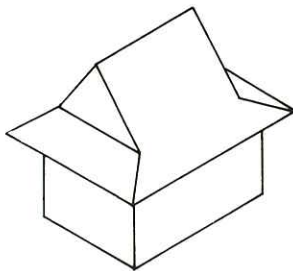
建物の屋根形式の一例



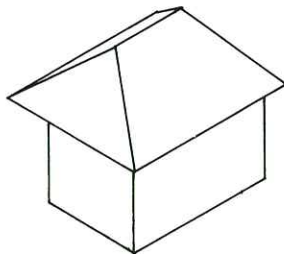
片流れ(かたながれ)



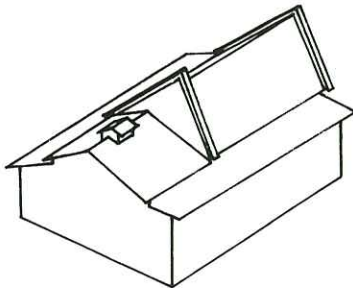
切妻造(きりづまづくり)



入母屋造(いりもやづくり)



寄棟造(よせむねづくり)

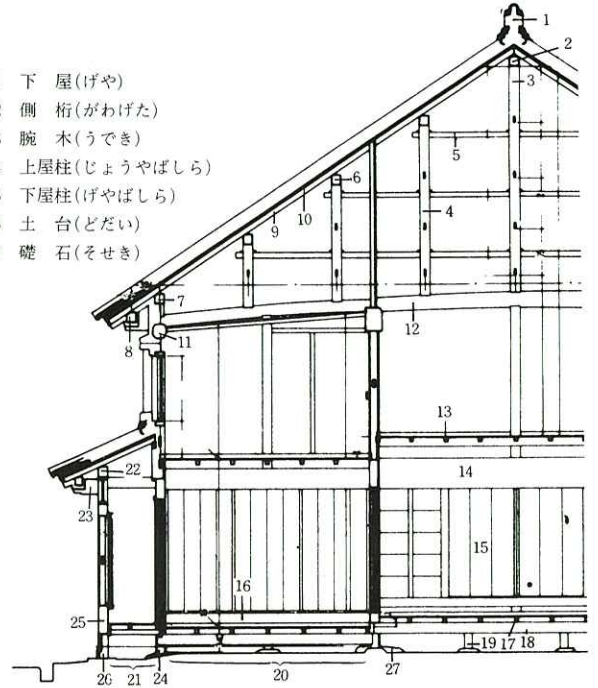


大和棟造(やまとむねづくり)

町家タイプの解説断面図

部材の名称

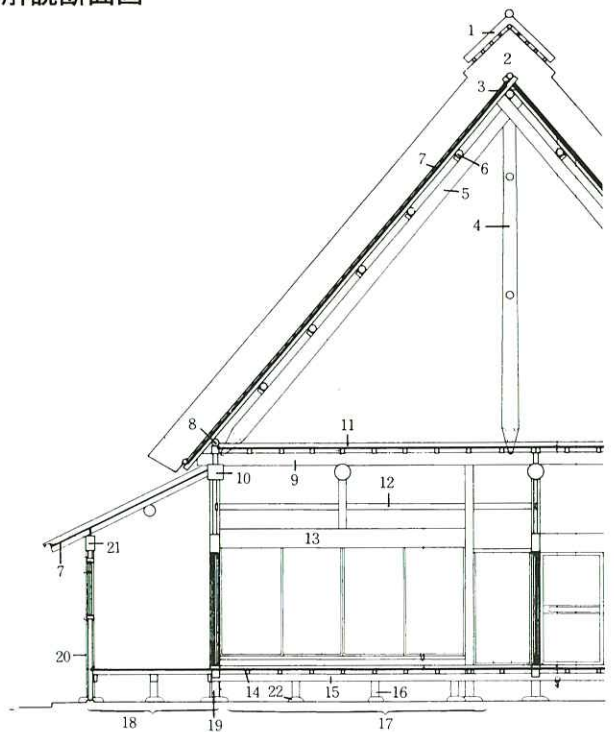
- | | |
|------------------|-----------------|
| 1 大棟(瓦積)(おおむね) | 21 下屋(げや) |
| 2 棟木(むなぎ) | 22 側桁(がわげた) |
| 3 棟束(むなづか) | 23 腕木(うでき) |
| 4 小屋束(こやづか) | 24 上屋柱(じょうやばしら) |
| 5 小屋貫(こやぬき) | 25 下屋柱(げやばしら) |
| 6 母屋(もや) | 26 土台(どだい) |
| 7 桁(けた) | 27 礎石(そせき) |
| 8 出桁(でげた) | |
| 9 垂木(たるき) | |
| 10 野地(のじ) | |
| 11 敷桁(しきげた) | |
| 12 上屋梁(じょうやばり) | |
| 13 根太天井(ねだてんじょう) | |
| 14 差鴨居(さしかもい) | |
| 15 帳台構(ちょうだいがまえ) | |
| 16 敷居(しきい) | |
| 17 根太(ねだ) | |
| 18 大引(おおびき) | |
| 19 床束(ゆかつか) | |
| 20 上屋(じょうや) | |



農家タイプの解説断面図

部材の名称

- | |
|------------------|
| 1 棟飾(むねかざり) |
| 2 棟(むね) |
| 3 棟木(むなぎ) |
| 4 棟束(むなづか) |
| 5 叉首(さす) |
| 6 屋中竹(やなかだけ) |
| 7 垂木(竹木)(たるき) |
| 8 桁(けた) |
| 9 上屋梁(じょうやばり) |
| 10 敷桁(しきげた) |
| 11 根太天井(ねだてんじょう) |
| 12 貫(ぬき) |
| 13 差鴨居(さしかもい) |
| 14 根太(ねだ) |
| 15 大引(おおびき) |
| 16 床束(ゆかつか) |
| 17 上屋(じょうや) |
| 18 下屋(げや) |
| 19 上屋柱(じょうやばしら) |
| 20 側柱(がわばしら) |
| 21 側桁(がわげた) |
| 22 礎石(そせき) |



ビデオ学習室利用の手引き

●当館ビデオ資料の意義

映像資料（音声を含む）は、当館が主な収集対象としている民間伝承、つまり、図書などの文字によらず、言葉や行為のくりかえしが定型化した文化事象＝民俗（民間の習俗）を対象とする場合には、その記録保存や解説を効果的に行う手段として有用であります。

祭礼、年中行事や職人衆の伝承技術、生活技術などはいつでも手にふれ目にする事の出来ない無形の伝承文化ですが、これを映像資料化することにより必要に応じて反復再生が可能となります。我々の文化のエッセンスと考えられるものを繰り返し観察し、そこに隠された人々の様々な思考の足跡やその行為の本質を見極め再評価をすることにより未来を開く糸口とすることも可能となるでしょう。

民俗資料とは我々自身の文化を再発見できる宝の山といえるものなのです。

当館のビデオ学習室では、ビデオディスク（VHD）と1/2インチビデオテープ（VHS）、この2方式により現在合計23時間程度（264番組）の公開できる映像資料を準備しております（別表P53～P56参照）。また、ビデオディスク（VHD）方式（No1～No.5の席）では平均3.5分程度の簡略な解説を、1/2インチビデオテープ（VHS）方式（No6の席）では15～30分程度の比較的詳しい内容の番組を見ていただくことになっています。

但し、1/2インチビデオテープ（VHS）方式の番組はその一部を席に出しておりますのでご希望の場合は事前に受付へお申し込みください。

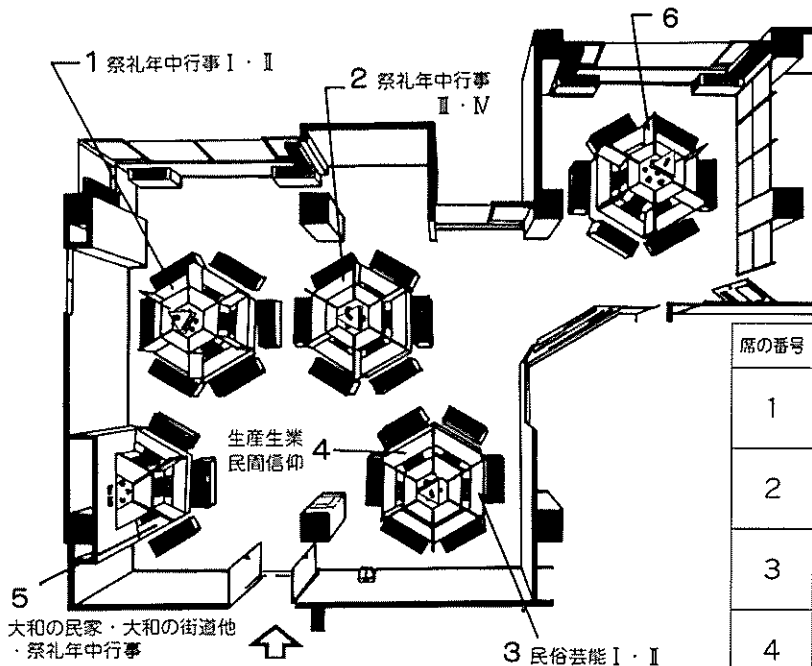
おねがい

※お互いにゆずりあい静かに使しましょう。

※混雑時は、一回20分の利用制限時間を守りましょう。

※祭りの日時は年によって変わる場合があります。

席の配置とおおまかな内容



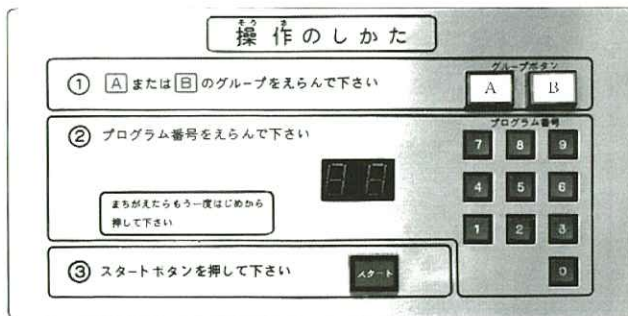
※6の席では、テープ方式により比較的長い番組が見られます。この席の番組は時々に変えておりますので各席のリストで選んでください。

席の番号	おおまかな内容
1	祭礼年中行事Ⅰ（冬のまつり・春のまつり） Ⅰ（初春のまつり） 計30番組
2	Ⅱ（夏のまつり） Ⅳ（秋のまつり） 計34番組
3	民俗芸能Ⅰ（神楽・題目立・田楽） Ⅰ（風流・能・狂言・人形浄瑠璃） 計30番組
4	生産生業（山のくらし、里のくらしの伝承技術） 民間信仰（くらしのなかの素朴な祈りの習慣） 計38番組
5	大和の民家・大和の街道・大和の民謡・わらべ唄 ・祭礼年中行事（初春のまつり） 計42番組

●番組のえらび方

《VHDディスク方式》1～5番席の場合

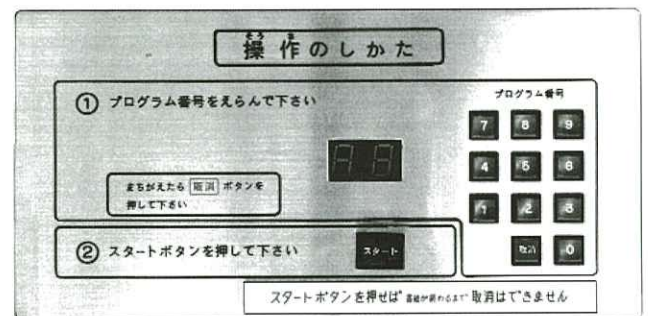
1. 入口の『見たい番組のえらび方』で“おおまかな内容”を調べ、見たい番組のある席を選んでください。
2. 席に座り、メッセージ画面が現われたら各席テーブルの左寄りにある番組表から見たい番組を選びます。番組は平均3.5分程度。
3. 見たい番組表の記号、A（白）かB（黄）を押し、さらに見たい番組の番号を押し（操作パネルの“操作のしかた”1～3の手順を参照）。約10秒で番組が現われます。



▲VHDディスク方式の操作パネル

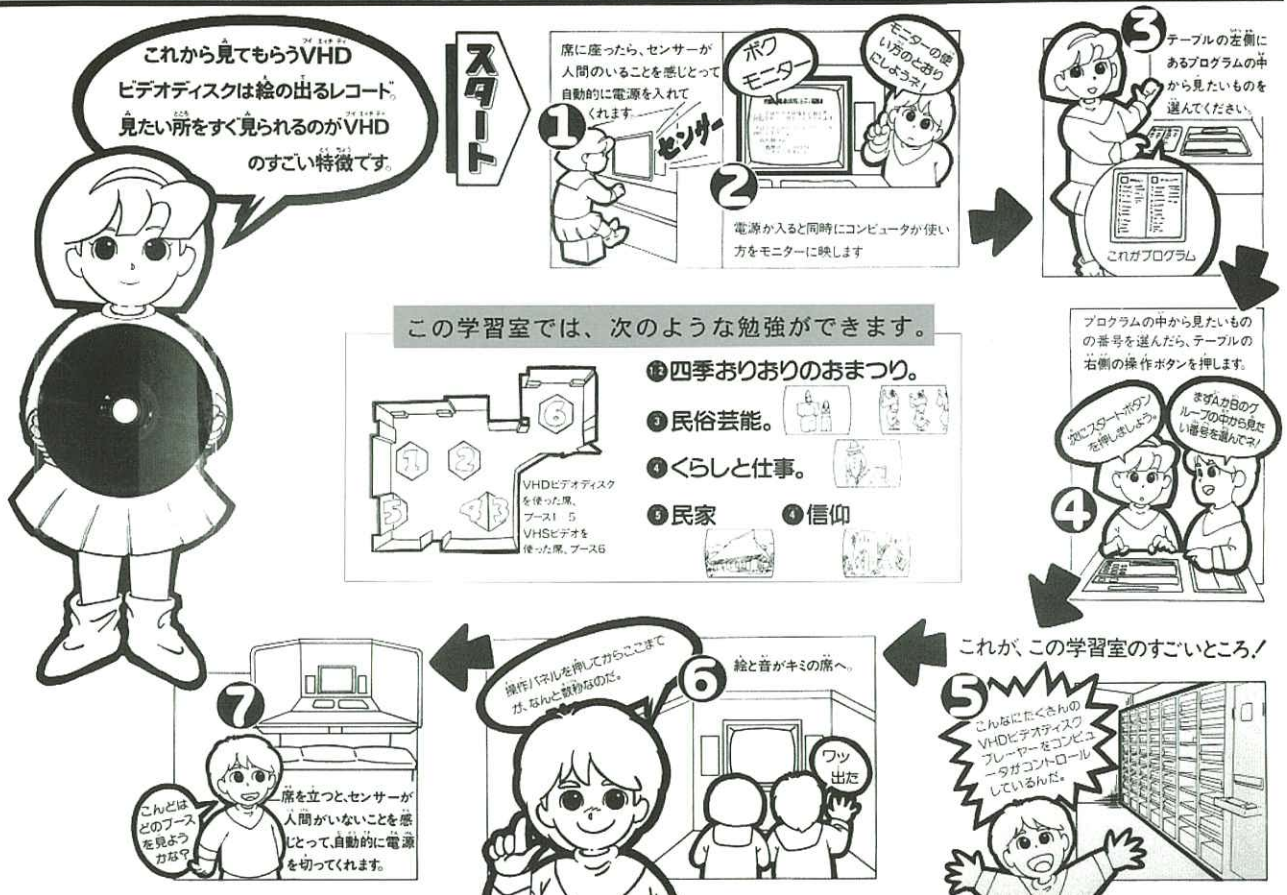
《VHSテープ方式》6番席の場合

1. 着席し、メッセージ画面の点灯を確かめ各席の番組表を見てその番号を押しします。
2. スタートボタンを押すと赤ランプが点滅します。番組が始まるとランプは点滅から、点灯に変わります。この間、または番組上映中は取消ボタンを押しても指定を変更することはできません。ご注意※この席はテープ方式のため番組が出るまで最大4分ほどかかります。各番組は15分～30分程度で比較的長いため、ゆとりをもってご利用ください。



▲VHSテープ方式の操作パネル

ビデオ（VHDビデオディスク）学習室のしくみ



ビデオ学習室の番組一覧表

① ビデオディスク方式により視聴するもの 計174番組(約600分)

1. 祭礼年中行事(I) 冬のまつり・春のまつり

(収録場所は、収録当時の住所で記載)

席No.	リストNo.	番組名	収録場所	(分・秒)	備考
1	A 1	高田のいのこまつり(その1) - まつりの準備 -	桜井市高田	5' 09"	
〃	〃 2	〃 (その2) - お仮屋こわしと直会 -	桜井市高田	4' 49"	
〃	〃 3	〃 (その3) - 灯明消しと直会 -	桜井市高田	3' 42"	
〃	〃 4	池原の山の神まつり	吉野郡下北山村池原	1' 49"	
〃	〃 5	春日若宮のおんまつり	奈良市春日野町	5' 33"	
〃	〃 6	下市恵比須神社の初市	吉野郡下市町下市	1' 16"	
〃	〃 7	新泉の野神まつり	天理市新泉町	3' 37"	
〃	〃 8	今里の野神まつり	磯城郡田原本町今里	2' 41"	
〃	〃 9	六県神社のおんだまつり	磯城郡川西町保田	8' 10"	
〃	〃 10	平尾のおんだまつり	宇陀郡大宇陀町平尾	8' 14"	
〃	〃 11	広瀬神社のおんだまつり	北葛城郡河合町川合	4' 07"	
〃	〃 12	野依のおんだまつり	宇陀郡大宇陀町野依	1' 47"	
〃	〃 13	飛鳥坐神社のおんだまつり	高市郡明日香村飛鳥	3' 53"	
〃	〃 14	吉野水分神社のおたうえまつり	吉野郡吉野町吉野山	3' 53"	

2. 祭礼年中行事(II) 初春のまつり

席No.	リストNo.	番組名	収録場所	(分・秒)	備考
1	B 1	陀々堂の鬼走り	五條市大津町	1' 28"	
〃	〃 2	弓手原のオコナイ(その1) - オコナイの準備 -	吉野郡野迫川村弓手原	4' 02"	
〃	〃 3	〃 (その2) - 三日の行事・朝～昼 -	吉野郡野迫川村弓手原	3' 25"	
〃	〃 4	〃 (その3) - 三日の行事・夜 -	吉野郡野迫川村弓手原	6' 17"	
〃	〃 5	〃 (その4) - 四日の行事 -	吉野郡野迫川村弓手原	2' 50"	
〃	〃 6	観音寺のランジョウ	山辺郡都祁村針	2' 18"	
〃	〃 7	各地のカンジョウかけ	県内各地	1' 11"	
〃	〃 8	槻原のカンジョウかけ	生駒郡平群町槻原	3' 22"	
〃	〃 9	江包・大西のお綱まつり	桜井市江包・大西	4' 38"	
〃	〃 10	河合の弓矢まつり	吉野郡下北山村河合	3' 32"	
〃	〃 11	藤井のオニウチ行事	天理市藤井町	4' 03"	
〃	〃 12	東大寺の修二会(その1) - 別火 -	奈良市雑司町	3' 29"	
〃	〃 13	〃 (その2) - 本行・食堂作法 -	奈良市雑司町	3' 24"	
〃	〃 14	〃 (その3) - お水取り -	奈良市雑司町	4' 39"	
〃	〃 15	〃 (その4) - 走りの行法 -	奈良市雑司町	3' 17"	
〃	〃 16	〃 (その5) - ダッタン(の)行法 -	奈良市雑司町	3' 49"	

3. 祭礼年中行事(III) 夏のまつり

席No.	リストNo.	番組名	収録場所	(分・秒)	備考
2	A 1	小原の虫送り	宇陀郡室生村小原	2' 40"	
〃	〃 2	中山田の虫送り	天理市中山田町	3' 53"	
〃	〃 3	田原本町の祇園まつり(その1) - たてやまつくり -	磯城郡田原本町本町	3' 39"	
〃	〃 4	〃 (その2) - まつりの当日 -	磯城郡田原本町本町	4' 24"	
〃	〃 5	和爾下神社の祇園まつり	天理市樺本町	3' 14"	
〃	〃 6	八木の愛宕まつり	橿原市八木町	2' 40"	
〃	〃 7	率川神社の三枝まつり	奈良市本子守町	3' 19"	
〃	〃 8	石上神宮の夏越の祓い	天理市布留町	1' 49"	
〃	〃 9	笛吹神社の夏越まつり	北葛城郡新庄町笛吹	1' 21"	
〃	〃 10	綱越神社のおんばらまつり	桜井市三輪	2' 24"	
〃	〃 11	八坂神社の夏まつり	吉野郡西吉野村宗川野・阪巻	2' 53"	
〃	〃 12	上之郷滝倉神社七月当のまつり	桜井市滝倉	3' 40"	
〃	〃 13	金剛山転法輪寺のレンゲまつり	御所市高天	4' 17"	
〃	〃 14	蔵王堂蓮華会カエルとび	吉野町吉野山	3' 25"	
〃	〃 15	深川の富士垢離	山辺郡都祁村上深川	3' 05"	
〃	〃 16	登弥神社の御湯	奈良市石木町	2' 41"	
〃	〃 17	ほうらんやまつり	橿原市東坊城町	2' 50"	
〃	〃 18	東佐味の六斎念仏	御所市東佐味	3' 20"	
〃	〃 19	木津川の祈禱念仏	吉野郡東吉野村木津川	5' 15"	

4. 祭礼年中行事(IV) 秋のまつり

席No.	リストNo.	番組名	収録場所	(分・秒)	備考
2	B 1	門僕神社の秋まつり	宇陀郡曾爾村今井	4' 36"	
〃	〃 2	御杖神社の秋まつり	宇陀郡御杖村神末	2' 45"	
〃	〃 3	丹生川上神社中社の秋まつり	吉野郡東吉野村小	4' 17"	
〃	〃 4	八幡神社の秋まつり	添上都月ヶ瀬村桃香野	3' 40"	
〃	〃 5	糸井神社の秋まつり	磯城郡川西町結崎	4' 23"	
〃	〃 6	往馬坐伊古麻都比古神社の秋まつり	生駒市一分町	1' 51"	
〃	〃 7	神波多神社の秋まつり	山辺郡山添村中峯山	2' 58"	
〃	〃 8	勝手神社の秋まつり	吉野郡野迫川村北股	3' 01"	

席No.	リストNo.	番 組 名	収 録 場 所	(分・秒)	備 考
2	B 9	水越神社の秋まつり	奈良市邑地町	7' 28"	
〃	〃 10	長尾神社の秋まつり	奈良市阪原町	5' 28"	
〃	〃 11	白山神社の秋まつり	宇陀郡室生村竜口	5' 46"	
〃	〃 12	戸隠神社の秋まつり	奈良市須川町	2' 28"	
〃	〃 13	天神社の秋まつり	大和高田市本町	2' 30"	
〃	〃 14	八幡神社の秋まつり	御所市古瀬字川合	2' 09"	
〃	〃 15	九頭神社の秋まつり	奈良市狭川両町・西狭川町	3' 58"	

5. 民俗芸能 I 神楽・題目立・田楽

席No.	リストNo.	番 組 名	収 録 場 所	(分・秒)	備 考
3	A 1	檜原神社の神楽	桜井市三輪	2' 26"	
〃	〃 2	春日大社の社伝神楽	奈良市春日野町	5' 57"	
〃	〃 3	春日大社の田舞	〃	3' 47"	
〃	〃 4	獅子舞一カマド祓い一	宇陀郡室生村室生	2' 31"	
〃	〃 5	室生竜穴神社の獅子舞	〃	6' 24"	
〃	〃 6	門僕神社の獅子舞	宇陀郡曾爾村今井	3' 17"	
〃	〃 7	白山神社の獅子舞	宇陀郡室生村竜口	4' 50"	
〃	〃 8	神波多神社の獅子舞	山辺郡山添村中峯山	1' 27"	
〃	〃 9	菅野の獅子祭り	宇陀郡御杖村菅野	1' 28"	
〃	〃 10	上深川の題目立	山辺郡都祁村上深川・八柱神社	3' 53"	
〃	〃 11	長尾神社の田楽	奈良市阪原町	4' 50"	
〃	〃 12	水越神社のじんばい	奈良市邑地町	2' 55"	
〃	〃 13	神波多神社の田楽	山辺郡山添村中峯山	2' 17"	
〃	〃 14	春日若宮おんまつりの田楽	奈良市春日野町	4' 57"	
〃	〃 15	丹生神社の田楽	奈良市丹生町	2' 45"	
〃	〃 16	九頭神社の田楽	奈良市狭川両町・西狭川町	3' 29"	

6. 民俗芸能 II 風流・能・狂言・人形浄瑠璃

席No.	リストNo.	番 組 名	収 録 場 所	(分・秒)	備 考
3	B 1	風流	奈良市・山添村・田原本町・十津川村	5' 35"	
〃	〃 2	丹生川上神社の太古踊り	吉野郡下市町丹生	3' 36"	
〃	〃 3	大柳生の太鼓踊り	奈良市大柳生町	3' 48"	
〃	〃 4	篠原踊り	吉野郡大塔村篠原	4' 41"	
〃	〃 5	十津川村の大踊り	吉野郡十津川村	5' 19"	
〃	〃 6	天誅踊り	吉野郡大塔村天辻	2' 49"	
〃	〃 7	阪本踊り	吉野郡大塔村阪本	8' 47"	
〃	〃 8	大野のイサメ踊り	宇陀郡室生村大野	1' 42"	
〃	〃 9	国栖奏	吉野郡吉野町南国栖	3' 15"	
〃	〃 10	翁舞一奈良豆比古神社・山添村春日の春日神社	奈良市奈良阪町・山添村春日	4' 53"	
〃	〃 11	天川狂言	吉野郡天川村坪之内	5' 56"	
〃	〃 12	惣谷狂言	吉野郡大塔村惣谷	4' 56"	
〃	〃 13	中峯の人形浄瑠璃	〃 中峯	1' 37"	
〃	〃 14	乙田町の人形浄瑠璃	生駒市乙田町	1' 20"	

7. 生産・生業

席No.	リストNo.	番 組 名	収 録 場 所	(分・秒)	備 考
4	A 1	奈良盆地の稲作	県内各地	5' 22"	
〃	〃 2	山の仕事(その1) 一山林の手入れ一	吉野郡川上村	2' 33"	
〃	〃 3	〃 (その2) 一皆伐一	〃	4' 55"	
〃	〃 4	〃 (その3) 一搬出一	〃	7' 23"	
〃	〃 5	大和高原のお茶づくり	奈良市・山添村	3' 19"	
〃	〃 6	国栖の紙すき	吉野郡吉野町窪垣内	2' 36"	
〃	〃 7	三輪そうめん	桜井市三輪	3' 49"	
〃	〃 8	下市の神酒口づくり	吉野郡下市町下市	1' 20"	
〃	〃 9	下市の三方づくり	〃	1' 13"	
〃	〃 10	高山の茶釜づくり	生駒市高山町	1' 50"	
〃	〃 11	奈良晒	添上郡月ヶ瀬村尾山	3' 15"	
〃	〃 12	野迫川の経木づくり	吉野郡野迫川村今井	2' 37"	
〃	〃 13	〃 箸づくり	〃 北股	2' 06"	
〃	〃 14	大塔村惣谷のツボ杓子づくり	吉野郡大塔村惣谷	5' 05"	
〃	〃 15	月ヶ瀬の烏梅づくり	添上郡月ヶ瀬村尾山	3' 35"	
〃	〃 16	奈良の一刀彫り	奈良市油留木町	5' 13"	
〃	〃 17	十津川のゆべしづくり	吉野郡十津川村武蔵	3' 42"	

8. 民間信仰

席No.	リストNo.	番 組 名	収 録 場 所	(分・秒)	備 考
4	B 1	四季農耕図の絵馬	大和高田市・橿原市・香芝市	2' 54"	
〃	〃 2	雨乞いの絵馬	奈良市・吉野郡川上村	3' 43"	
〃	〃 3	芸能の絵馬	大和高田市・磯城郡川西町・三宅町	4' 19"	
〃	〃 4	祈願の絵馬	桜井市・葛城市	3' 54"	
〃	〃 5	宝山寺の祈願絵馬	生駒市門前町・宝山寺	2' 14"	
〃	〃 6	古絵馬	当麻寺・秋篠寺・金峯山寺	1' 43"	
〃	〃 7	祭礼・娯楽の絵馬	天理市・橿原市・葛城市・生駒郡三郷町	3' 13"	
〃	〃 8	元興寺の地藏会	奈良市中院町	2' 42"	

席No.	リストNo.	番組名	収録場所	(分・秒)	備考
〃	B 9	帯解寺の子安地蔵	奈良市今市町	1' 54"	
〃	〃10	丹生の三日地蔵	〃 丹生町	2' 18"	
〃	〃11	路ほうの地蔵	奈良市内	2' 17"	
〃	〃12	病気をなおす地蔵	〃	2' 41"	
〃	〃13	大和各地の地蔵	奈良市、天理市	3' 45"	
〃	〃14	南都の寺々の地蔵菩薩像	奈良市、生駒郡斑鳩町	3' 47"	
〃	〃15	奈良町の庚申信仰	奈良市西新屋町	1' 43"	
〃	〃16	山上ヶ岳大峯山寺の戸開式	吉野郡天川村洞川	2' 16"	
〃	〃17	吉野山と大峯信仰	〃 吉野町吉野山	2' 59"	
〃	〃18	天川村洞川と大峯信仰	〃 天川村洞川	2' 49"	
〃	〃19	山上ヶ岳の行場	〃 天川村洞川、山上ヶ岳	4' 16"	
〃	〃20	下北山村前鬼と大峯おくがけ	〃 下北山村前鬼	1' 29"	
〃	〃21	十九夜講	奈良市下狭川町	3' 48"	

9. 大和の民家・環濠集落・家並

席No.	リストNo.	番組名	収録場所	(分・秒)	備考
5	A 1	吉川禎一家住宅	橿原市山之坊町	2' 16"	
〃	〃 2	吉川順作家旧住宅	大和民俗公園(元橿原市中町)	1' 52"	
〃	〃 3	村井家住宅	北葛城郡新庄町南道徳	2' 06"	
〃	〃 4	中村家住宅	御所市名柄	1' 22"	
〃	〃 5	菊家住宅	添上郡月ヶ瀬村桃香野	1' 59"	
〃	〃 6	今井町の民家	橿原市今井町	1' 18"	
〃	〃 7	栗山家住宅	五條市五條1丁目	2' 01"	
〃	〃 8	細川家住宅	奈良市南城戸町	1' 24"	
〃	〃 9	藤岡家住宅	〃 元興寺町	2' 26"	
〃	〃10	鹿沼家旧住宅	大和民俗公園(元大和高田市永和町)	1' 40"	
〃	〃11	徳井家住宅	吉野郡川上村高原	3' 07"	
〃	〃12	乾家住宅	〃 西吉野村滝	1' 26"	
〃	〃13	西田家住宅	〃 〃 鹿場	1' 41"	
〃	〃14	堀家住宅	〃 〃 賀多生	2' 02"	
〃	〃15	辻家住宅	〃 十津川村五百瀬	2' 13"	
〃	〃16	稗田の環濠	大和郡山市稗田町	4' 16"	
〃	〃17	膳夫の環濠	橿原市膳夫町	2' 16"	
〃	〃18	東新堂の環濠	桜井市東新堂	1' 23"	
〃	〃19	阪手の環濠	磯城郡田原本町阪手	1' 16"	
〃	〃20	保津の環濠	〃 〃 保津	4' 11"	
〃	〃21	法蓮町の家並	奈良市法蓮町	1' 57"	
〃	〃22	下市の家並	吉野郡下市町下市	2' 09"	
〃	〃23	柳本の家並	天理市柳本町	1' 55"	
〃	〃24	田原本の家並	磯城郡田原本町	3' 07"	
〃	〃25	奈良町の家並	奈良市	1' 30"	
〃	〃26	大和高田の家並	大和高田市	3' 44"	

10. 大和の街道・大和の民謡・わらべ唄・祭礼年中行事追補(初春のまつり)

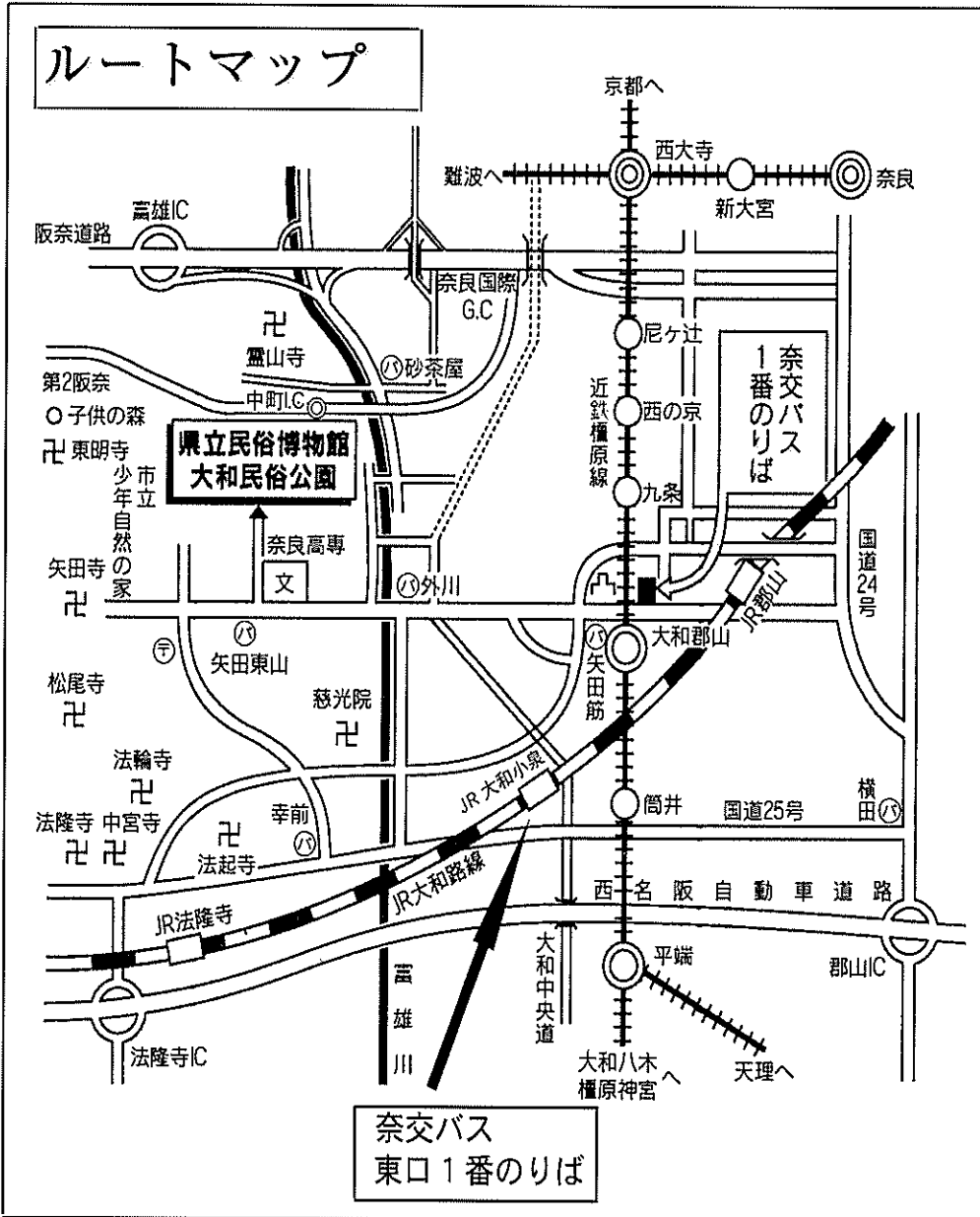
席No.	リストNo.	番組名	収録場所	(分・秒)	備考
5	B 1	暗がり越え旧奈良街道	生駒市・奈良市	5' 47"	
〃	〃 2	旧伊勢街道(その1)	桜井市初瀬	2' 24"	
〃	〃 3	〃 (その2)	宇陀郡榛原町	2' 33"	
〃	〃 4	〃 (その3)	宇陀郡曾爾村・御杖村	3' 26"	
〃	〃 5	〃 (その4) 高見越え	吉野郡東吉野村	7' 13"	
〃	〃 6	旧高野熊野街道	〃 野迫川村・十津川村	4' 23"	
〃	〃 7	芋峠・壺阪峠	高市郡高取町	4' 40"	
〃	〃 8	紙漉き唄	吉野郡吉野町窟垣内	3' 13"	
〃	〃 9	紙そ打ち唄	〃	2' 45"	
〃	〃10	祝い唄	〃 下北山村寺垣内	2' 05"	
〃	〃11	わらべ唄一レンゲつもか花つもか一	奈良市内	2' 45"	
〃	〃12	三輪の年迎え	桜井市三輪	3' 33"	
〃	〃13	唐招提寺の修正会一餅談義一	奈良市五条町	2' 51"	
〃	〃14	薬師寺花会式一花ごしらえ一	奈良市菩提山町・西ノ京町	3' 41"	
〃	〃15	〃	奈良市西ノ京町	3' 25"	
〃	〃16	〃 一鬼追い一	〃	3' 03"	

② 1/2インチ(VHS)ビデオテープ方式により視聴するもの (計75番組)

種別	席No.	整理No.	番組名	収録場所	(分・秒)	備考
祭礼 年中行事	6	1	大神神社繞道祭	桜井市三輪	1' 49"	
	〃	2	しめ縄づくり	宇陀郡曾爾村伊賀見	3' 08"	
	〃	3	天川村のお朝拝	吉野郡天川村中越・川合	3' 07"	
	〃	4	川上村のお朝拝	〃 川上村神之谷	3' 15"	
	〃	5	吉祥草寺のとんど	御所市茅原	5' 11"	
	〃	6	興福寺の鬼追い	奈良市登大路町	2' 18"	
	〃	7	手向山神社のお田植	〃 雑司町	3' 10"	
	〃	8	東大寺修二会と竹送り	京都府京田辺市	3' 00"	
	〃	9	吉野川の雛流し	五條市南阿田町・源龍寺	2' 47"	

種 別	席No.	整理No.	番 組 名	収 録 場 所	(分・秒)	備 考
生産・生業 祭礼 年中行事	6	10	藤原町の涅槃会	奈良市藤原町	2' 13"	
	〃	11	矢田原の子供涅槃	奈良市矢田原町	4' 30"	
	〃	12	興福寺の涅槃会	〃 登大路町	2' 00"	
	〃	13	春日大社の春日祭	奈良市春日野町	4' 43"	
	〃	14	蛇穴の汁かけ祭一蛇曳き一	御所市蛇穴	4' 22"	
	〃	15	大和神社のちゃんちゃん祭	天理市新泉町	4' 45"	
	〃	16	竜田大社の風鎮祭	生駒郡三郷町立野	3' 39"	
	〃	17	金剛寺の灯笼流し	五條市野原町	3' 15"	
	〃	18	高雄神社の秋まつりー女の座ー	桜井市北白木	4' 52"	
	〃	19	大神神社の杉玉づくり	〃 三輪	2' 39"	
	〃	20	木地師(ロクロ師)	吉野郡吉野町宮滝	2' 21"	
	〃	21	墨づくり	奈良市西ノ京町	4' 15"	
	〃	22	井戸替え	大和郡山市天井町・ 吉野郡下市町瀬ノ上	3' 06"	
	〃	23	田原の祭文と祭文おどり	奈良市田原地区	6' 00"	奈良市公報公聴課協力
	〃	24	田原のおかげおどり	〃	6' 00"	〃
	〃	25	夏まつりの献燈	吉野郡下市町広橋・丹生	6' 00"	下市町情報センター協力
	〃	26	新住の八幡神社秋まつり	〃 〃 新注	6' 00"	〃
	〃	27	立石のお練り	〃 〃 立石	6' 00"	〃
	〃	28	下市の八幡神社の秋まつり	〃 〃 下市	6' 00"	〃
	〃	29	大聖寺の観音まつり	〃 〃 栄	6' 00"	〃
	〃	30	下市の地藏まつり(その1)	〃 〃 下市・立石	6' 00"	〃
	〃	31	〃 (その2)	〃 〃 阿知賀宇野々熊	6' 00"	〃
〃	32	波比売神社の宮座まつり	〃 〃 枋原	6' 00"	〃	
〃	33	岩郷神社・八幡神社の秋まつり	〃 〃 仔邑	6' 00"	〃	
〃	34	下市のドンド	〃 〃 善城・立石	6' 00"	〃	
〃	35	下市の割箸づくり	〃 〃 下市・善城	6' 00"	〃	
祭礼年中行事	〃	36	下市のお稲荷さん	〃 〃 才谷・立石・広橋	6' 00"	〃
生産・生業	〃	37	鍛冶屋	宇陀郡室生村染田	30' 00"	当館収録8ミリより
農づくりの伝統技術	〃	38	檜木屋	〃 菟田野町古市場	17' 00"	〃
竹を材料にした伝承技術	〃	39	竹箕	当館体験学習の記録 (橿原市今井町)	14' 33"	〃
〃	〃	40	藤箕	山辺郡山添村遅瀬	14' 38"	〃
〃	〃	41	竹籠	当館体験学習の記録 (吉野郡大淀町下淵)	11' 06"	〃
〃	〃	42	番傘	(〃 吉野町宮滝)	11' 50"	〃
木を材料にした伝承技術	〃	43	平杓子とツボ杓子	(〃 大塔村篠原)	12' 38"	〃
〃	〃	44	割り箸	(〃 下市町善城)	〃	〃
〃	〃	45	桶	(大和郡山市東岡町)	18' 10"	〃
植物繊維・	〃	46	紙すき	吉野郡吉野町窪垣内	20' 16"	〃
果実を材料	〃	47	烏梅	添上郡月ヶ瀬村尾山	10' 00"	〃
にした伝承	〃	48	麻織り	〃	13' 38"	〃
技術	〃	49	草履	当館体験学習の記録 (大和郡山市矢田町)	10' 23"	〃
祭礼年中行事	〃	50	奈良市八島のお盆と六斎念仏	奈良市八島町	15' 22"	〃
盆 行 事	〃	51	御所市東佐味のお盆と六斎念仏	御所市東佐味	6' 40"	〃
奈良の伝統	〃	52	奈良人形	奈良市商工観光課企画番組	12' 30"	奈良市商工課協力
工芸シリー	〃	53	毛筆	〃	15' 00"	〃
ズ	〃	54	墨	〃	15' 00"	〃
〃	〃	55	奈良団扇	〃	13' 55"	〃
〃	〃	56	ばちる	〃	11' 52"	〃
〃	〃	57	奈良漆器	〃	13' 55"	〃
〃	〃	58	乾漆	〃	17' 43"	〃
〃	〃	59	赤膚焼	〃	16' 15"	〃
奈良のむかし	〃	60	良弁杉	奈良県婦人児童課企画番組 (国際児童年記念番組)	11' 23"	本県児童福祉課協力
話シリーズ	〃	61	ありんこ通し	〃	11' 22"	〃
〃	〃	62	お田引いたん見たかえ	〃	11' 30"	〃
〃	〃	63	おむかえダヌキ	〃	11' 25"	〃
〃	〃	64	子育てゆうれい	〃	11' 10"	〃
〃	〃	65	ばかされ太郎吉	〃	11' 20"	〃
〃	〃	66	水がめのうなぎ	〃	11' 23"	〃
〃	〃	67	三枚のおふだ	〃	11' 25"	〃
〃	〃	68	おにとマメまき	〃	11' 25"	〃
奈良のわらべ	〃	69	奈良の大仏さん	〃	1' 56"	〃
唄シリーズ	〃	70	みみずがさんびき	〃	1' 56"	〃
〃	〃	71	たんすながもち	〃	2' 00"	〃
祭礼年中行事	〃	72	宮座の祭	大和郡山市教育委員会企画の 16ミリ映画からビデオ化	17' 38"	大和郡山市社会教育 課協力
大和の	〃	73	履物表づくりーチバ表ー	桜井市大福	15' 00"	当館収録ビデオより
伝承技術	〃	74	藍染めー紺屋の仕事ー	宇陀郡室生村下笠間	17' 00"	〃
〃	〃	75	狸の毛抜きー奈良筆の材料づくりー	宇陀郡菟田野町岩崎	18' 00"	〃

民俗博物館利用の手引き



●開館時間 9:00~17:00
(入館は16:30まで)

〈一般〉

大人200円、高・大生150円、
小中生70円

〈団体〉20名以上

大人150円、高・大生100円、
小中生50円

〈無料〉

65歳以上の高齢者

身体障害者等(介助者1名)

土曜日の小・中・高校生

●休館日

毎週月曜日

祝日、振替休日のときは、次の平日
年末年始(12月28日~1月4日)

●交通機関

近鉄郡山駅またはJR大和小泉
駅東口より奈良交通バス①の
りばから「矢田東山(県立民
俗博物館前)」下車、北へ徒
歩10分。

●連絡先

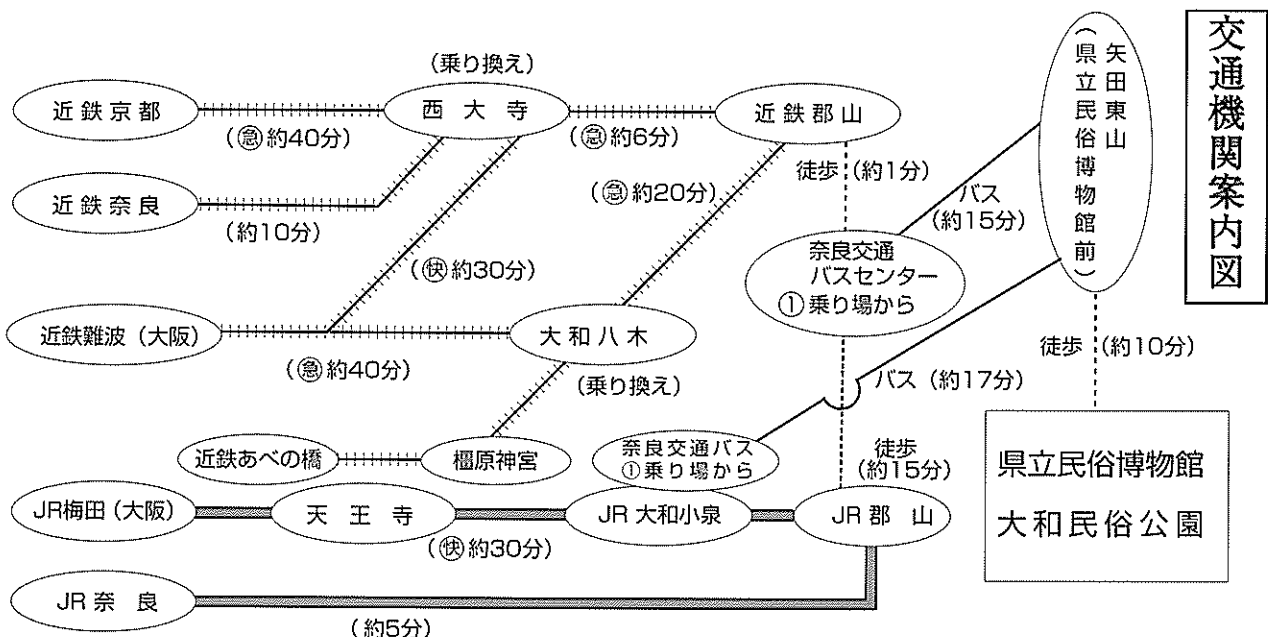
奈良県立民俗博物館

〒639-1058

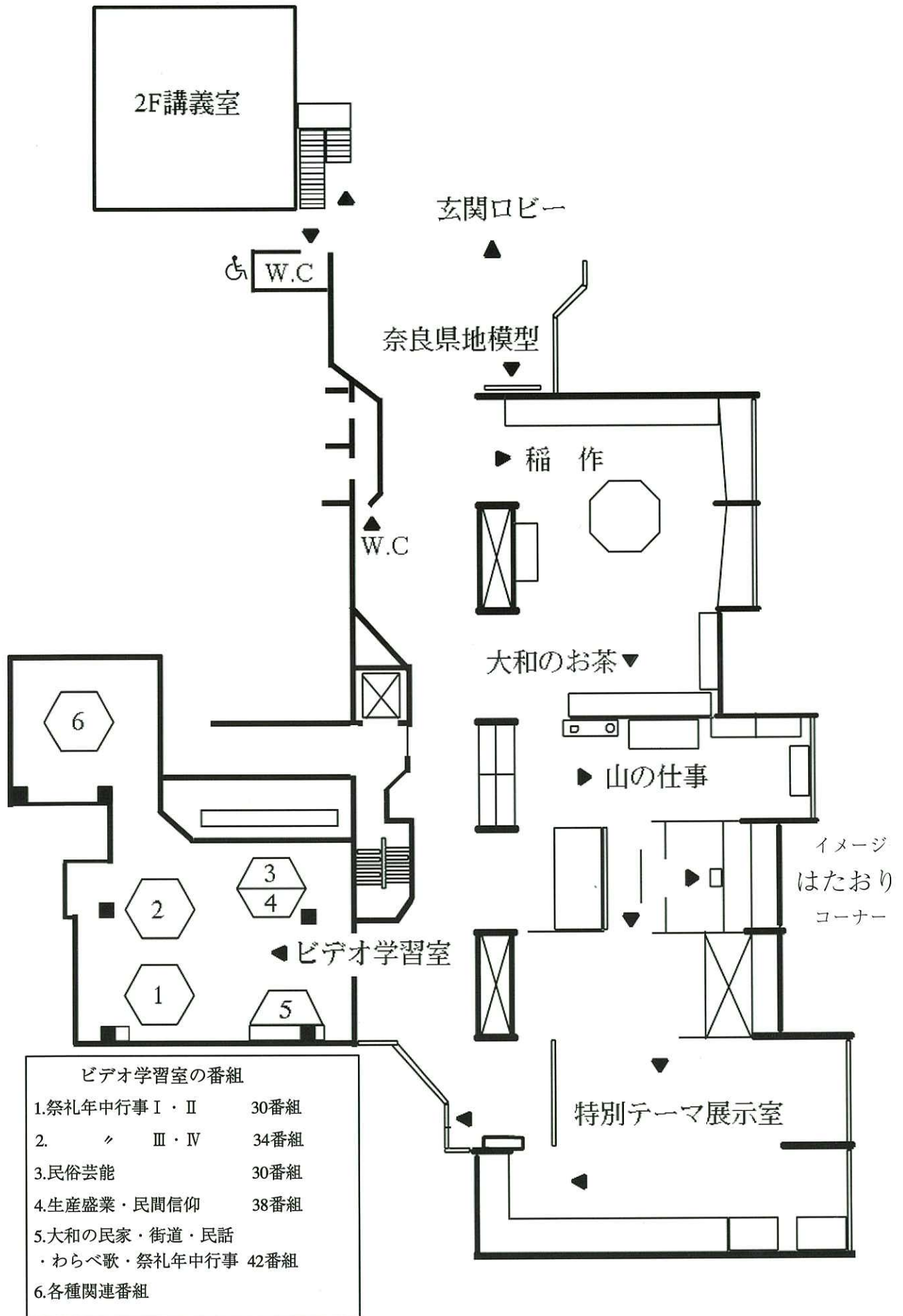
大和郡山市矢田町545番地

TEL.0743-53-3171(代)

FAX.0743-53-3173



館内配置図



民俗公園案内図

面積 26.6ha
 一周 2.1km
 散歩所要時間約40分



民家の開門時間
 午前9時～午後4時
 見学所用時間約60分
 休館日・毎週月曜日
 (祝日・振替休日のときは次の平日)
 ・年末年始(12月28日～1月4日)

公園利用者へのお願い

1. 公園内での火気使用および休憩所以外での喫煙は禁止しております。民家や里山林周辺は特にご注意ください。
2. 民家の床上にはあがらないでください。なお、民家内部を写真撮影したい方は、事前に民俗博物館の窓口に申し出て所定の手続きをおとりください。
3. 各広場は1団体で独占することなく、ゆずりあってご利用ください。
4. 工事場所の表示の出ている区域には、危険ですので、立ち入らないでください。
5. 犬の散歩について
 幼稚園や小学校の団体が公園の芝生にすわってお弁当が食べられるよう、また里山などの散策が楽しめるように、犬の糞は放置せず必ず飼い主が責任をもってお持ち帰りください。

展示あんない

発行日／平成21年3月（改訂第三版）

編集／奈良県立民俗博物館

〒639-1058

大和郡山市矢田町545

☎ (0743) 53-3171

印刷／株式会社 昭文社

